

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

October 2021

Écoutez Bien Vol.38 No.439

10

熊野神社 ^ね ^ぎ 禰宜にきく



唐茄子

瓜を見合、唐茄子と引替るへし

江戸時代、東京の人はいったい何をどう食べていたのだろう。「豆腐百珍」や「玉子百珍」以外にレシピ本はほとんど無く、食べものを知りたいければ個人の日記などを参照するのが一番らしい。古文書に見る江戸時代の食べ物。それも東京の人、多摩の人の食生活を、太田先生と考察する。

文久三年三月六日、幕府からの触書を伝達された砂川村の名主（村野※）源五右衛門は、三月十四日に組頭へ廻状をまわし、十五日に寄合を開催するので、ひと組二人ずつ選んで出席するよう求めた。文久三年とは一八六三年、一八六八年の明治維新にまもなくという時期。源五右衛門が組頭を集めて何を通達するかといえば、八番組の須崎家文書「御用留」にはこのようにある。

- 一、銘々食物たくわへ可申候事
- 一、次二塩を買入貯置可申候事
- 一、瓜を見合、唐茄子と引替作るへし
- 一、あい草仕付候者ハ直ニむしり取、何成共食物ニひきかえ作るべし
- 一、稗仕付候事、かんよふ之事
- 一、秋麦仕付之種、銘々買入置可申候事
- 一、先日申付候竹槍、ひよふしき無間違格置可申候、近々せいそろひ見分致し候事

この前年、武蔵国橘樹郡生麦村（現在の横浜市鶴見区生麦）付近で、薩摩藩主の父、島津久光の行列に乱入した騎馬のイギリス人たちを、供回りの藩士たちが殺傷した「生麦事件」が起きた。その後イギリス政府は幕府の老中たちに対し、犯人の引き渡し、さらに謝罪と賠償金十万ポンドを要求するとともに、艦隊を薩摩に派遣して直接薩摩藩と交渉し、犯人の処罰および賠償金二万五千ポンドを要求することを通達。交渉を有利に導くために、イギリス、フランス、オランダ、



アメリカの四か国艦隊が横浜に入港した。

幕府は旗本らに対し、万が一戦争になった場合には「身命を抛^{なす}」って戦うよう命じ、江戸市中および近郊の村々へは触書を発して、開戦となった時の心得を伝えた。これを受けて砂川村が定めた事柄が「御用留」の内容だった。各家が食糧を蓄えておくこと、塩を買い入れて蓄えておくこと、江戸向け作物の瓜の栽培を見合わせ、唐茄子（かぼちゃ）を植えること、藍を植えている場所はただちに引き抜き、何か食糧になるものを植えること、稗を蒔いて育てるのが重要であること、秋に蒔く麦の種はあらかじめ各家で買っておくこと、先日申しつけたように、竹槍と拍子木を揃えておくこと、近々組中を集めて見分を行う予定であること。これらが列挙された後、このたびは容易ならざる事態のため、急寄合を開催することがあるので、どんな場所においても遅れないように出席すること、途中で待ち合わせなどして寄合に向くといった行為はしないこと、という注意書きが添えられている。

砂川には「灰汁屋」の屋号があったように藍の生産もしていた。江戸向けの野菜も作っていたが、それらを止めて唐茄子を植えなさいと。いつの世も、非常時の備えはやはりお腹を満たすもの。

さて、その唐茄子、当時はどうやって食べていたのだろうか。一般家庭で砂糖や醤油を使ったとは思えない。唐茄子そのものの甘みを生かして、落語の「唐茄子屋政談」にあるように「唐茄子安倍川」で食べたのか。

繋いでいく難しさ

熊野神社を守っていく

コロナ禍の立川青年会議所理事長
熊野神社の禰宜として神様に仕え地域を守る
楽しくも模索の毎日のようだ

——都築さんは中央大学でいらしたんですね。

都築 ええ。高校が國學院久我山で、神主になりたくないから普通の大学に行かせてほしいと親に頼んで、大学を卒業したら神職に就くという交換条件で中央大学に進みました。でも、大学に行ったらますます神主になりたくなっちゃって、それで一般企業に就職しました。もともと、神主になるにしても見聞を広めてからの方がいいだろうという思いがあったので、結果的にはよかったと思っています。

——熊野神社の何代目になられるのですか。

都築 三代目です。都築家はこの神社代々の家系ではないのです。戦後、祖父が愛知から出てきて、当時奉職していた代々木の鳩森八幡神社のご紹介もあり、無人だったこの熊野神社を預からせていただくことになりました。それまでは諏訪神社の高橋さんのところで兼任してくださっていました。

——では、地域の方には喜ばれたでしょう。

都築 そうですね。喜ばれています。初めは地縁のない所から来ましたから、祖父は地域のために励んだように。休みを作らないとか、留守電を使わないとか。いろいろな努力をし続けて地域に根ざし、溶け込んでいったようです。

——都築さんに最初にお目にかかったのは立川青年会議所の委員会でした。今年は都築さんがその立川JCの理事長でいらっしゃいます。

都築 その任期も残すところ3か月になりました。JCも私の入った頃とは少し体質が変わって、いわゆる根性論のようなものは薄まったり、また経営者以外のメンバーの増加、職種の変化などで立川JCの雰囲気も変化したと思います。メンバーからはこのコロナ禍によるWEB中心のあり方だと、JC活動の醍醐味が実感しづらいと聞きます。特にコロナ禍以降の入会者にとっては、対面での活動に制限があり、余計に実感しづらい。それをただ私の言葉のみで伝えていくのは難しい。今年は緊急

事態宣言がずっと続いていますし。

——今年、都築さんはどうするのだろうと思っていました。

都築 これまでも工夫を重ねながらメンバーが頑張っているの、残りの3ヶ月、私も負けないように頑張ります。それに理事長職を終えても40歳の卒業まで在籍するメンバーも何人かいますので、何かやれることがあるのではないかと考えています。それにしてもコロナには本当に早く収束してもらいたいです。

——熊野神社の歴史は古いんですね。

都築 はい。300年くらいあります。都築家はまだ三代です。地域の氏子の皆さんは氏神に対する敬意とか信頼で対応くださっています。父も「先生」と呼ばれたり、神職は聖職者と言われるかもしれませんが、聖人ではないので勘違いしないようにと常に思っています。決して驕ってはいけなし、謙虚に。氏子の皆さんにとったら、都築でなくてもいいわけです。お宮を守って盛り立ててくれていることに対して感謝してくださっているのだと、神社に戻ってきてすごく思いました。

——すばらしい。無駄に外に出ていたわけではないんですね。

都築 神社に生まれ育ち、三代目三代目と呼ばれてきました。それがいやで家を出て不動産業に就職しました。が、そこでは地縁の地主さん方とお会いするわけです。それもまたいやで。神社に戻ってこの業界に入ってみたら、熊野神社の三代目という立場と神道界での立場とは相当なギャップがありました。北多摩で熊野神社という「社格」と言われる格付けが下の方なんです。熊野神社の三代目であっても、神道界では「お前が出る幕ではない」とお叱りをいただくようなこともあります。私は三代目と言われて大切に育てられましたので、三代目といわれることに無意識のうちに驕りがあったのでしょう。神道界の厳しい処遇にショックを受けたことも

都築諒さん

1983年、立川市生まれ。1726年に創建されたと言われる熊野神社の神職。神社の三代目と言われることに反発し、中央大学へ進学。卒業後、改めて國學院大學で神道を学ぶ。一般企業での経験を経て30歳で熊野神社へ戻り、禰宜として現在に至る。公益社団法人 立川青年会議所第57代理事長。

ありました。けれども、その時に気づいたので。いやだいやだと、甘やかされることから逃げようとしていたくせに、実は自分が一番そこにこだわっていたのだと。

——なるほど。

都築 そこに気づいて、今度はそれがショックで。自分の器の小ささが。それで、そんなことにこだわるのではなく、自分をきちんと磨いて、家とか仕事とかに関係なく真摯に人と付き合える人間になりたいと思っています。神社がいやだとか言いながら、一番肩書にこだわっていたと気づいて、自分がいやでしたね。

——JCで出会った時、あれは5年くらい前でしたか。もっとやんちゃなイメージでした。

都築 JCもそうですよ。紹介されて入った時は、JCは社長ばかりですごい人の集まりだと聞いて萎縮していたんです。でも実際に入ってみたら、みんながいていて。だったら、一緒になってもがけないと自分も変われないと思ったんです。そんなころにお目にかかったんですね。

——当時、都築さん、一生懸命でしたね。神社のお仕事の合間に装束のまま走ってきて(笑)。

都築 周りが一生懸命な人ばかりでしたから。それが普通だったんです。後輩ができて、どうやって伝えたらいいのかなと、最近難しいと思うようになりました。オレの時代はこうだったよと言わないで、どうやってやってもらうか。モチベーションを高めるとか、メリットがあるよという言い方をするのか。手法はいろいろ試さないといけない。私が就職した時は、まずやってみると言われました。先輩に聞くのは人の時間を盗むことだと、聞く権利はあるが教える義務はないといわれました。そうした経験の中で得たものを、手法を変えてどうやって伝えたらいいか、考えますよね。

——そうしたご経験は神社の運営にも役立ちますでしょう。



都築 神社、神道を繋いでいくにはどうしたらいいかという話は、弟とはよくしています。次代がたまたま血縁者になることもあるでしょうし、そうでないこともある。そこは我々の預かり知らぬことという方針で弟とは話し合っています。両親は継いでもらいたい、孫にも思っています。親ですから人情としてはわかります。——お休みもないし、お手当も会社員の時より減ってしまったということですが、神社のお仕事を続けていくモチベーションって何ですか。

都築 土地に馴染んで仕えていくモチベーションは、恩返り的な部分です。神社に関わってきた人や地域に対して。その感謝が無ければここに住んではいられないです。

——熊野神社のご神体は。

都築 熊野神社は本宮、那智、速玉とありますが、うちは熊野本宮からご神体を賜っています。戦時中に燃えてしまった後、新たに境内地を移し、社殿完成の後、先々代の宮司が昭和31年に熊野本宮大社から御分霊いただきました。

——先ほど話に出た継承を思います時、時代に即した宗教ということはお考えになりますか。

都築 まず都築諒でなければできない形ではなく、誰が継いでもできる形にしていきたいですね。漠然と考えているのは、伝統は守って引き継いでいきたい。ただ慣習や慣例は一回疑ってもいいのかなと。神社とはこうだと言う時、そこにながしかの、お金なのか、時間なのか、人なのか、それが神社の存続に関わることであったら、それが時代に適応しているかどうか、一度検討すべきだと思っています。神社庁の規定に関わるとすれば、それは伝統の部分だと思います。が、熊野神社固有の慣習、当社というなら12月にある火難防除祭。昔は火事が多かったのでその要望を受けて作った神事です。神事としてはこれからも続けていきますが、そこに神社としてどれだけ力を注ぐかというこ

とです。宗教法人法とは異なる内規などに関しては見直していかないと、神主の成りてもいなくなりますから。でも、「慣習ですから変えました」ではいけない。そこは自分自身の研鑽も含めて、コミュニケーションとか説明とかの能力も高めていかなければならないです。何十年か後には神社の数はどんどん減っていくと言われています。もしかすると、そういったところに起因するのかもしれない。

——でも、神様は暮らしとともにありますよね。

都築 神様が暮らしに溶け込んでいる部分って、例えばかつての流行語「神ってる」「神の」とかに表れていると思うんです。ものすごく偉い神様というよりは、暮らしに寄り添っている、溶け込んでいる身近なものとして受け入れているんじゃないかなと。

——そうですね。でも一方で神様にもっと畏怖を持ってもいいんじゃないでしょうか。

都築 神社にもっとリスペクト持ってほしいと思う反面、神社側、神道界がどのくらい教化活動をしているかと言えば、どうかなと思います。

——高野山の講話がYouTubeチャンネルにあるのですが、お坊さんひとりずつに2万回以上のアクセスがあります。

都築 神道は、神職がご神前を向くため、参拝者から見ると神職の背中を見る形になるので、「背中の宗教」と言われることがあります。神職はご神前を向きますが、時代に沿った教化という観点も大切にし、崇敬者や参拝者に向き合う必要がありますね。

——伝統とか神道の何たるかを改めてわかっていただくのも大事ですね。

都築 そうですね。僕らが普通と思うことを一般の方は知らない。それを自覚しないで話していきると乖離が深まります。僕はサラリーマンの経験がある分ギャップは少ないかなと思いますが、でも神主の歴が厚くなるごとにギャップが開いてきたように感じるんですよ。



お父様で宮司の都築孝也さんと

形になった スズカケの精霊

「音楽を好きになる街へ」というコンセプトが生み出した傑作

立飛ホールディングスの村山正道社長が、赤川作品を
「多機能ホールTACHIKAWA STAGE GARDENにぜひ作って欲しい」と依頼。
それから約1年。たちかわ中央公園にあるスズカケ三兄弟の精霊が形になって現れた。

昨年4月に開業した街区 GREEN SPRINGS。ウェルビーイングをテーマに、人の心を大切に、水や木々など自然との融和を図りながら賑わいを創出する努力が続けられている。そこに設置されるモニュメント。抽象的な現代アートに加えて、どこか心温まる作品をと考える中、やはり立川なら赤川作品をと銅板作家 赤川 BONZEさんに依頼は届いた。

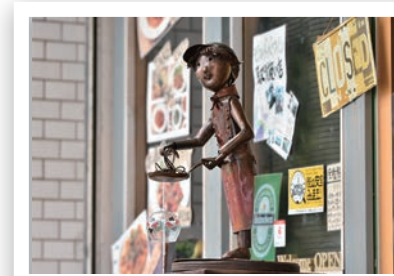
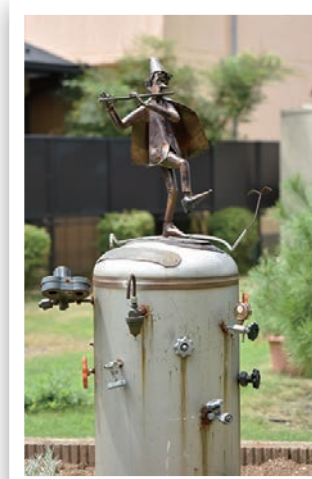
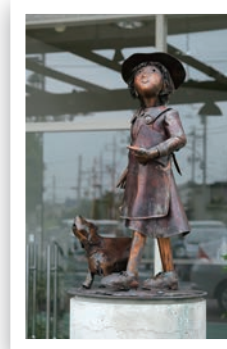
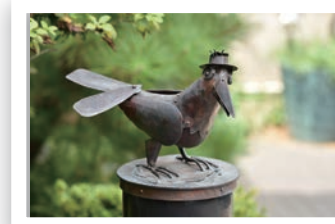
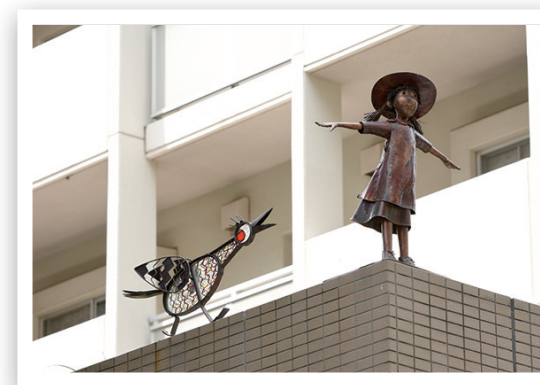
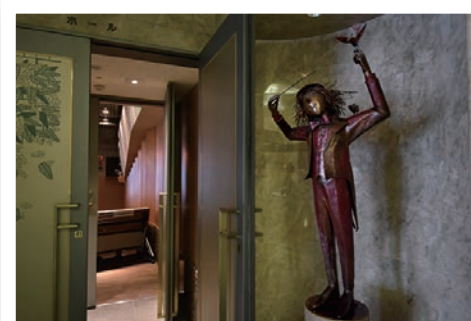
赤川氏の作品は全国に散見される。わざわざ鑑賞しに行くというよりは、散歩していたら出逢ったというほのぼのした作品が多い。地元立川には、個人宅を入ると30点以上の作品があるという。そのどれもが、優しく愛らしく、子どものようでもあり妖精のようでもある。

TACHIKAWA STAGE GARDENに登場した「三本のプラタナスとしあわせな三楽士をつくった人々」の像は、たちかわ中央公園にある通称「スズカケ三兄弟」がモチーフ。旧立川米軍基地内にあったスズカケの木を、1999年に伐採する計画が持ち上がり、市民が声を上げて反対したストーリーがある。木であることにちなんで、三楽士はオーボエ、ファゴット、クラリネットの木管楽器を奏でている。スズカケも自然の一部である以上寿命はあるが、たとえ姿が消えても三楽士が音色を響かせて、そのストーリーを歌い続けてくれるだろう。

※P7に連続記事あり。



at TACHIKAWA STAGE GARDEN



朝の虹

8月18日と19日、朝の虹が美しく見られました。朝ですから、虹が出ているのは西の空。昇ってくる太陽の陽を受けて、雨のスクリーンに屈折した光が色となって見えています。朝の虹は雨の予兆、あるいは良いことの知らせなどと言われますが、美しく大きく見えるとそれだけで嬉しくなります。二重の虹が見えています。主虹の色の順番と副虹の色の順番は逆なのだそうです。

ところで、こんなにきれいな現象なのに、どうして「虫」編なの?と思ったこと、ありませんか?どうにも「虹」という漢字がその美しさとマッチしていない気がするのです。ここに使われる「虫」は大蛇を意味するそうですが、そこに天と地を貫くという意味を持つ「工」が組み合わさる。つまり、「虹」は天空を貫く蛇ということのようです。なんとも美しい大蛇ではありませんか。



表紙

彼岸花の群生

日本の植物学の父と言われた牧野富太郎氏は、その著書『植物知識』の中でこう書いています。「『万葉集』にイチシという植物がある。私はこれをマンジュシャゲだと確信しているが、これは今までだれも説破したことのない私の新説である。そしてその歌というのは、**路の辺の老師(いちし)の花の灼然(いちしろ)く、人皆知りぬ我が恋妻を**」である。右の歌の灼然の語は、このマンジュシャゲの燃ゆるがごとき赤い花に対し、実によい形容である。しかしこのイチシという方言は、今日あえて見つからぬところから推してみると、これはほんの狭い一地方に行われた名で、今ははやく廃れたものであろう。」

実に彼岸花には多くの別名があります。花咲く時には葉がなくて、葉の出る時に花はない。そこからハミズハナミズなどとも呼ばれるようです。あなたの地域ではなんと呼びますか、彼岸花。

かたこと

◆いつも「えくてびあん」をご覧いただきありがとうございます。いつのまにか、立川の空気にも秋の気配が漂っています。皆様、お変わりありませんか。依然コロナの勢いは衰えることを知りません。不安を抱えながらの毎日にお疲れにはなっていないですか◆よく知る人がコロナに感染しました。テレビやネットで情報は溢れています。けれどもいざ病にかかってみると、普通の病気ではないことを痛感させられます。感染者の急増で逼迫した保健所からの連絡は、なかなか届きません。孤立した不安の中で症状は重くなり、若くても数分後の命を確信できないと言っていました◆かつて人はそんな時、神仏を頼ったのではないのでしょうか。喉元過ぎればのご都合信心でなく、神様や仏様を畏れ、日頃から信仰して初めてご利益に預かるのかも知れません。熊野神社の都築さんのお話には、考えさせられることが多々ありました◆折る姿と言え、中学生相撲選手権大会での一幕。団体戦で選手が土俵に上がった時からずっと合掌し目をつぶって祈り続けている3人の女性がいました。お母さんたちなのでしょう。子どもの喜びがお母さんの喜び。勝った瞬間、お母さん3人が飛び上がって喜び涙を拭いていました。大会が開催されたからこそこうした光景があったのだと思うと、中止するより何とか続ける、負けないその努力が大切なものかもしれないと思われました。 えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ⑧

10月号 第38巻 通巻439号

令和3年10月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL https://www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須 環
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
印刷 三浦印刷株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

街の話題

TOPICS OF TACHIKAWA

全国から集まりました

8月21日と22日。アリーナ立川立飛に、全国から強い中学生が集まりました。それぞれの地域の予選を勝ち抜いて、地域の代表としてやってきた団体48校、個人148名。第51回全国中学校 相撲選手権大会立川大会は「関東の青空へと放て 君の夢」をスローガンに、静かな中に開催されました。昨年はコロナ感染症を鑑みて中止されましたが、本年は感染症対策を第一に、感染拡大予防ガイドラインを遵守しての開催となりました。本来ならば国技館で行われる大会です。様々な事情で国技館が使えない中、毎年巡業もしているアリーナ立川立飛での開催となりました。今や「相撲と言えは立川」ですね。

今大会の大会委員長は、立川第六中学校校長の加藤隆司先生。準備の間もさぞ苦労があったことと察しますが、当日は開会宣言をされ、その後も土俵の上はもちろん、周囲にも気を配られていました。表彰が終わり、ほっとしたのもつかの間、これから2週間何事も起きなければいいのだけれど、と気が抜けないご様子。いつも以上に心配事が多かった今大会。加藤先生、事務局の皆様、お疲れさまでした。



アリーナ立川立飛



関係者のみの客席



国旗、諸旗掲揚で



開会宣言後の立川市長挨拶



真ん中に加藤大会委員長

個人優勝の西出大毅さん(和歌山県西和中)と準優勝の井野響稀さん(鳥取県東伯中 左)、右の2人は3位になった鮫島輝さん(埼玉県入間黒須中)と吉田泰造さん(香川県高松北中)



準決勝



決勝戦

えくてびあんの輪

えくてびあんはリストのお店にあります。
今月は 栄町・高松町・曙町 のお店です。

栄町
いなげや 立川栄町店.....523-7201
チーズ王国 本社.....513-4101
高橋酒店.....522-4479
彩食中華 須崎.....507-0981
寝具の石川.....524-1333
手作りパン工房 Bonheur~ボヌール~536-3207
FUKUSHIMAYA 立川店 534-1700
相模屋酒店.....536-2476
メンズカット ヤザワ.....536-8738
大型コインランドリー マンマチャオ栄町店

高松町
ルーデンス食堂
米穀・食料品 横町屋.....522-2609
サイクルセンター シバタ.....522-3888
中華料理店 太幸苑.....527-0906
セイロン風カレー シギリア 507-2418
ライブハウス Crazy JAM 529-9507
立川湯屋敷 梅の湯.....522-3800
ヘアサロン イトウ.....522-6281
立川伊勢屋 本店.....522-3793
大野サイクル.....523-2061
立川キリスト教会.....526-6826
サロン・ケベクア美容室.....527-4716
HAIR MAKES たしろ.....525-2175

曙町
うなぎ しら澤.....524-5061
中華料理 福心樓.....524-2343
久住ハウジング(株).....527-8007
不動産 大晋商事.....525-3110
ヤマミュージックアベニュー立川 523-1431
蕎麦懷石 無庵.....524-0512
TABACCONIST ゼフィルス 524-0514
あら井館総本店.....522-2957
大衆劇場 立川けやき座.....512-5057
立川伊勢屋 ルミネ店.....524-3395
たましん すまいるプラザ立川 0120-667-646
オリオン書房 ルミネ立川店 527-2311
みずほ銀行 立川支店.....524-3121
コスメードル 辰巳屋.....524-6051
エミリーフログ 本店.....527-1138
カフェ クリムト.....526-3030
黒毛和牛専門店 焼肉 FUKI 523-0166
宮地楽器 MUSIC JOY 立川北 527-6888
三井住友銀行 立川支店.....522-2151
レストラン サヴィニ.....525-1662
立川献血ルーム.....527-1140
アートルーム 新紀元.....528-6952
MOTHERS ORIENTAL 528-0855
和食どころ 若草茶屋.....526-0010
三上鯉節店.....522-3259
エフエムたちかわ.....524-0844
ビックカメラ 立川店.....548-1111
Charcoal Dining るもん 527-3022
酒亭 玉河.....522-2654
三菱東京UFJ銀行 立川支店 524-4121
玉屋 KITCHEN.....595-7847
ホテルエミシア 東京立川.....525-1121
カフェ アバン.....527-4479
手打ちそば しえ もと.....529-5468
シンボバン.....522-6211
天ぶら わかやま.....525-0222
café cocokara.....512-7159

jorakugajo

真如苑提供番組〈常楽我浄〉

スカパー! : 529ch

スカパー!で放送の常楽我浄は
スマートフォンアプリ「ivy」(無料)で視聴できます。

J:COM 多摩 : 11ch・111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

江戸の話は面白い

講演会の様子



太田尚宏先生



今号より連載が始まりました『江戸食べ物談義』。その案内人を務めてくださる国文学研究資料館 准教授の太田尚宏先生の講演会が、9月4日上砂図書館でありました。コロナ禍にあいにくの雨ではありましたが、会場に20余名、オンラインでも11名の参加を得て開催。この日は江戸中頃、田沼時代と言われる1751年から1789年くらいまでの文化史についてのお話でした。人々の暮らしに根ざした文化、殊に江戸時代

代の暮らしには現代に失われてしまった何かがあるような気がしませんか。

田沼時代と言えば、賄賂政治に代表される悪政の代名詞のように言われますが、文化史的に見れば、それまでの「享保の改革」による高福祉高負担政治から、重商主義政策に変わりお金回りがよくなった時代。金銭の余裕は心の余裕につながり江戸庶民の「心性」が文化現象として広がり、その後の「化政文化」へと結実されていきます。その辺りを、具体的に事例を挙げてお話くださった約2時間。講演が終わってからも質問が止まず、今に通じる江戸文化は皆さんの興味の対象なのだと改めて思われました。

講演の終わりの方で、ちょっとお金ができた人たちの小旅行ルートの紹介がありました。目的は「小金井花見物」。「内藤新宿」を出て「中の」へ出て「堀の内の妙法寺」をお参りして、「井ノ頭弁天開扉参詣」「宮ノ後御殿山」から「玉川上水」を伝って、「小金井橋傍」らの「柏屋」に。美味しいものを食べて飲んで、翌日は「国分寺」に参詣、おっと西に進むと思いきや南へ下って

「府中」へ出てしまう。そこからは「甲州街道」を通して「四ツ谷」へ。立川までは来ないですね。江戸時代、このルートがマッピングされていたとか。現代はSNSですが、江戸時代だって、手法は違えどやることは同じ。その頃立川人が賑わいを創出したいと思っていたとは思えませんが、今思えばどうやって立川まで人を呼ぶかは変わらないテーマ。当時は秋の鮎でしたが、現代の次の一手はなんでしょう。



※地名は資料「小金井橋桜の道標」のまま

さすが図書館。江戸文化の本を取り揃えて展示してありました